大津町議会　広報編集特別委員会行政調査

氏名　　豊瀬　和久

視察研修名：大津町議会広報編集特別委員会行政調査
視　察　先：①奈良県王寺町　　②鳥取県大山町　（両日ともオンライン）
期　　日：令和６年８月１９日（月）～２０日（火）
研修テーマ：議会だより編集について

研修報告　意見・感想

広報編集特別委員会は、大津町役場においてオンラインを活用した研修を開催し、８月１９日（月）と８月２０日（火）の２日間、広報委員として参加しました。
研修内容は、１日目の８月１９日（月）は、奈良県王寺町よりおうじ議会だよりリニューアルの道とのテーマで行いました。
「リニューアルの経緯」としては、人事異動で広報係長が議会へ、それとともに改選で新たな議会となり、議会だよりに課題を感じる正副議長が誕生したことで議会だよりのリニューアルが始まりました。
まずは、ターゲットを２０～４０代の女性とし、コンセプトをあなたと議会をつなぐガイドブックとして、読みやすくするために、文体、レイアウト、イラスト、配色に統一感を持たせることや、文字を少なく写真を多くすることなどにより、議会だよりの愛読者を増やすとともに、広報の充実が住民アンケートの施策満足度のトップとなっています。
そのうえで、見やすくするためのポイントとして、①見出しは大きく簡潔に。②文章のスリム化を図る。③簡潔で柔らかい表現にして文体を統一。④読み手を第一に考える。ということを学びました。
ターゲットとコンセプトを明確に決めるとともに、住民に親しまれる議会だよりにしていくためには、住民参加の必要性を感じました。
２日目の８月２０日（火）は、鳥取県大山町より議会だよりだいせんの編集に関する研修を行いました。
大山町では、編集の基本方針を読みやすい広報誌ということで、読み手にとって読みやすい広報誌にすることとしており具体的には、町民の声を積極的に掲載したり、興味を引く見出しづくりに力を入れているとのことでした。
ターゲットは、興味関心の薄い若い世代として、読んでもらわなければ意味がないという考え方のもと編集されています。
全国で評価される議会には、編集要領、編集方針、編集モットーや、
ターゲットが確立されており、今後は、この２町の良いところを参考にして、議会で決まったことが町民の皆さんの生活にどのように影響するのかを中心に、分かりやすい内容にして、議会だよりによって町民生活に密着している議会のことを知ってもらいたいと思います。
今回の広報研修や意見交換会の内容を参考にして、広報委員と議会事務局で力を合わせて、読み手を第一に考えた「議会だより」を作っていくことが重要だと思いました。